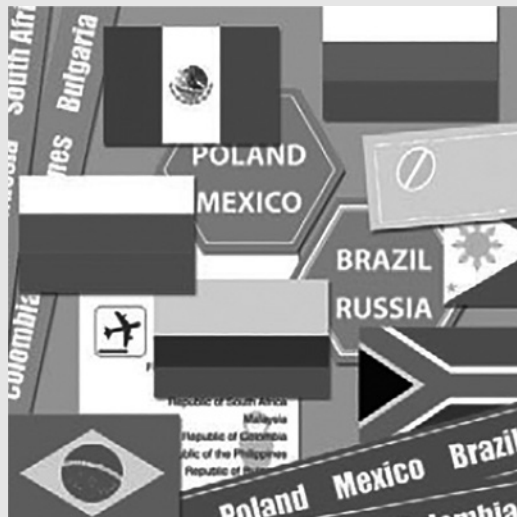


エマージング債券 ファンド(毎月分配型)

追加型投信／海外／債券

日経新聞掲載名：エマ債券

第40作成期 2023年2月21日から2023年8月21日まで

第234期 決算日
2023年3月20日第235期 決算日
2023年4月20日第236期 決算日
2023年5月22日第237期 決算日
2023年6月20日第238期 決算日
2023年7月20日第239期 償還日
2023年8月21日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドはマザーファンドへの投資を通じて、主として新興国の政府および政府機関等の発行する米ドル建ての債券を中心に投資を行うことにより、安定的かつ高水準の利息収益の確保と信託財産の長期的な成長をめざして運用を行いました。ここに当作成期の運用状況等をご報告いたします。

皆さまのご愛顧ありがとうございました。

 **三井住友DSアセットマネジメント**
〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

当作成期の状況

償還価額(償還日)	6,487円00銭
純資産総額(償還日)	3,787百万円
騰落率(当作成期)	+10.2%
分配金合計(当作成期)	150円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

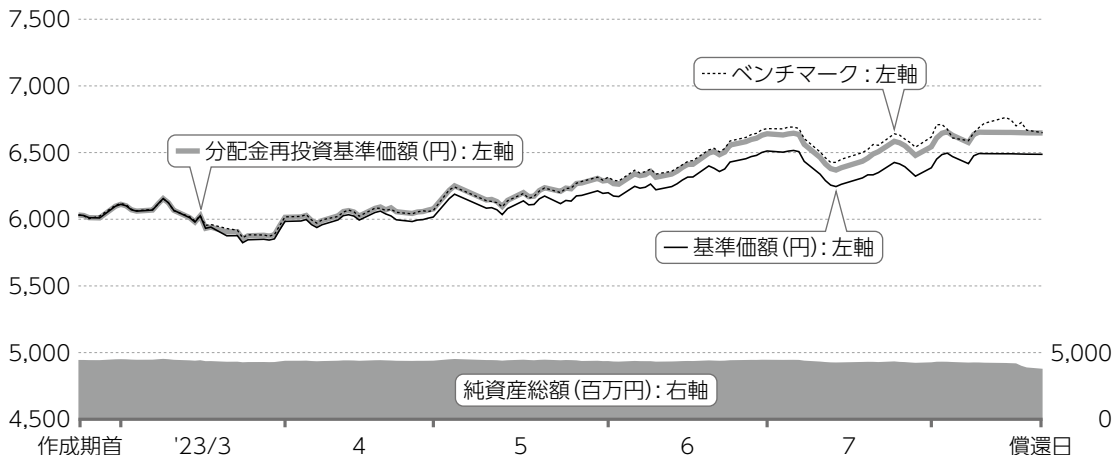
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について(2023年2月21日から2023年8月21日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額およびベンチマークは、作成期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

作成期首	6,032円
償還日	6,487円00銭 (当作成期既払分配金150円(税引前))
騰落率	+10.2% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドのベンチマークは、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ダイバースファイド(円換算ベース)です。

※指数の著作権、知的所有権、その他一切の権利は発行者、許諾者が有しています。これら発行者、許諾者は当ファンドの運営に何ら関与するものではなく、当ファンドの運用成果に対して一切の責任を負うものではありません。

基準価額の主な変動要因(2023年2月21日から2023年8月21日まで)

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて、主として新興国の政府および政府機関等の発行する米ドル建ての債券を中心に実質的に投資しました。

上昇要因

- コロンビアは、インフレ上昇圧力が緩和したことが好感され上昇したこと
- エルサルバドルは、C A B E I (中央アメリカ経済統合銀行)から融資を受けることで合意し、2023年償還債の元利払いが発表されたことが好感され上昇したこと

下落要因

- エジプトは、信用格付けが引き下げられ下落したこと
- カタールは、信用格付けが高く金利感応度が高いため金利上昇に伴い下落したこと

1万口当たりの費用明細(2023年2月21日から2023年8月21日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	49円	0.798%	信託報酬=期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数/年日数) 期中の平均基準価額は6,194円です。
(投信会社)	(24)	(0.383)	投信会社:ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(24)	(0.383)	販売会社:交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(2)	(0.032)	受託会社:ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	-	-	売買委託手数料=期中の売買委託手数料/期中の平均受益権口数 売買委託手数料:有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(-)	(-)	
(先物・オプション)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(c) 有価証券取引税	-	-	有価証券取引税=期中の有価証券取引税/期中の平均受益権口数 有価証券取引税:有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(-)	(-)	
(公社債)	(-)	(-)	
(投資信託証券)	(-)	(-)	
(d) その他費用	2	0.030	その他費用=期中のその他費用/期中の平均受益権口数
(保管費用)	(2)	(0.030)	保管費用:海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(-)	(-)	監査費用:監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他:信託事務の処理等に要するその他費用
合計	51	0.828	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

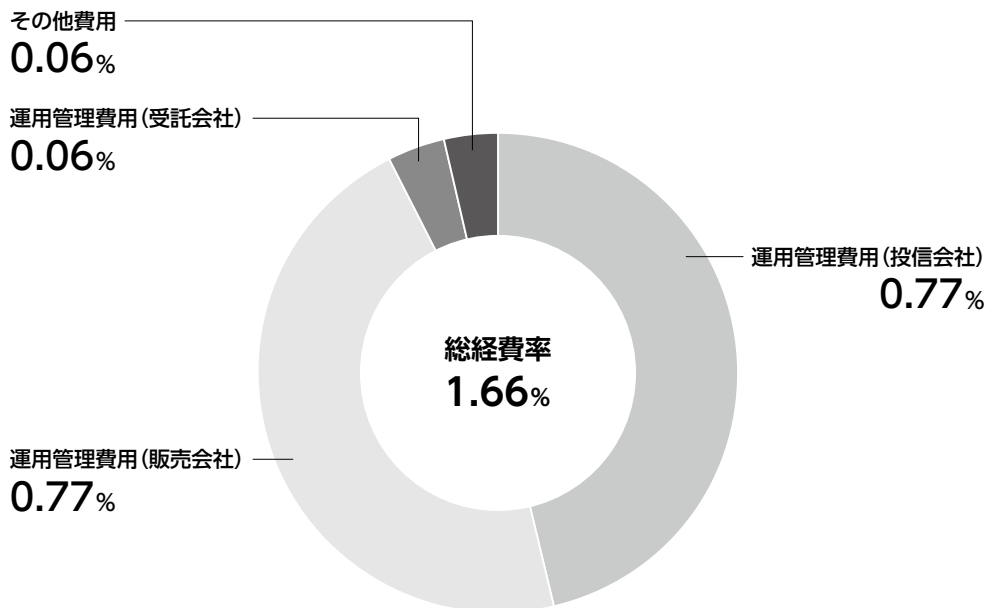
※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。



参考情報 総経費率(年率換算)



※各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

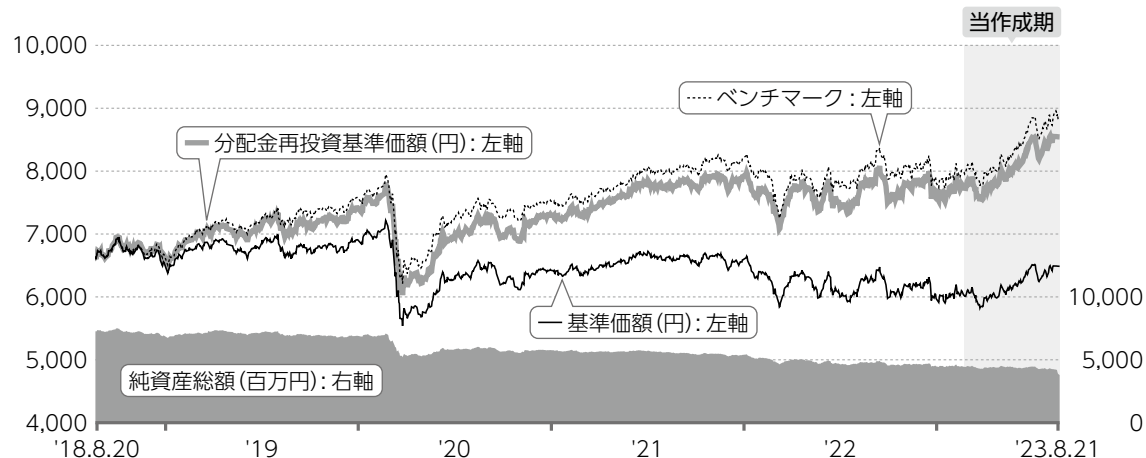
※各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。

※上記の前提条件で算出しているため、「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。なお、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率換算)は1.66%です。

最近5年間の基準価額等の推移について(2018年8月20日から2023年8月21日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額およびベンチマークは、2018年8月20日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

		2018.8.20 決算日	2019.8.20 決算日	2020.8.20 決算日	2021.8.20 決算日	2022.8.22 決算日	2023.8.21 償還日
基準価額	(円)	6,641	6,669	6,468	6,582	6,289	6,487.00
期間分配金合計(税引前)	(円)	—	360	360	360	360	330
分配金再投資基準価額騰落率	(%)	—	5.9	2.5	7.6	1.1	8.8
ベンチマーク騰落率	(%)	—	8.7	3.4	7.1	1.3	8.7
純資産総額	(百万円)	7,285	6,937	5,935	5,553	4,796	3,787

投資環境について(2023年2月21日から2023年8月21日まで)

エマージング債券市場は上昇しました。為替市場では、米ドルは円に対して上昇し、ほとんどの新興国通貨も対円で上昇しました。

エマージング債券市場

期間における新興国債券市場は上昇しました。

インフレ減速の兆しが見え始めたことで投資家心理が改善したことなどから、ベース金利である米国国債利回りは上昇したものの、クレジットスプレッド(先進国債に対する上乗せ金利)は大幅に縮小しました。

IMF(国際通貨基金)は2023年の世界経済見通しを小幅に上方修正し、FRB(米連邦準備制度理事会)はインフレ緩和の兆しを受けて利上げペースを減速させました。ユーロ圏のインフレ率は減速したものの高水準を維持したため、ECB(欧州中央銀行)は利上げを継続しました。

中国政府は全国人民代表大会(全人代)で成長率目標を5%前後に設定し、中国人民銀行(中央銀行)は数回の利下げを実施したものの、景気刺激策は市場の期待を下回るものでした。

新興国の中央銀行による利上げペースは総じて鈍化し、ブラジル、チリ、ウルグアイなど、いくつかの中央銀行は利下げに転じました。トルコ中央銀行は新しい経済

チームの下で利上げ幅を市場予想より小幅にとどめました。

為替市場

米ドル・円は、日本銀行が7月に指値オペ(日銀が指定する利回りで国債を無制限に買い入れるオペ)の水準を0.5%から1.0%へ引き上げたことがサプライズとなり、一時的に円高に振れる局面もありましたが、マイナス金利政策を維持したことや、FRBが利上げを継続する姿勢を示したことから、期間を通じて上昇基調が続きました。米ドル高・円安基調を受けてほとんどの新興国通貨は対円で上昇しました。

ポートフォリオについて(2023年2月21日から2023年8月21日まで)

当ファンド

期初より主要投資対象である「エマージング債券マザーファンド」を高位に組み入れました。ただし、償還前には現金化しました。

エマージング債券マザーファンド

メキシコは引き続きポートフォリオの最大のオーバーウェイトを維持しましたが、オーバーウェイト幅を縮小しました。またコートジボワール、ドミニカ共和国、セネガルなどのフロンティア国(経済成長率が高いものの小規模で流動性が低い国)は利回りが高く、ファンダメンタルズ(経済の基礎的条件)も良好であるため、引き続きオーバーウェイトとしました。

一方で、フロンティア国全体のエクスポージャーは縮小しました。中国はパンデミック(世界的大流行)規制緩和後の成長回復が失速し、米中間の緊張が高まったため、最大のアンダーウェイトを維持しました。アラブ首長国連邦、サウジアラビア、マレーシアなど、低利回りで高格付けの国債は金利感応度が高く投資機会が限られるためアンダーウェイトを維持しましたが、ポーランドはウェイトを引き上げました。

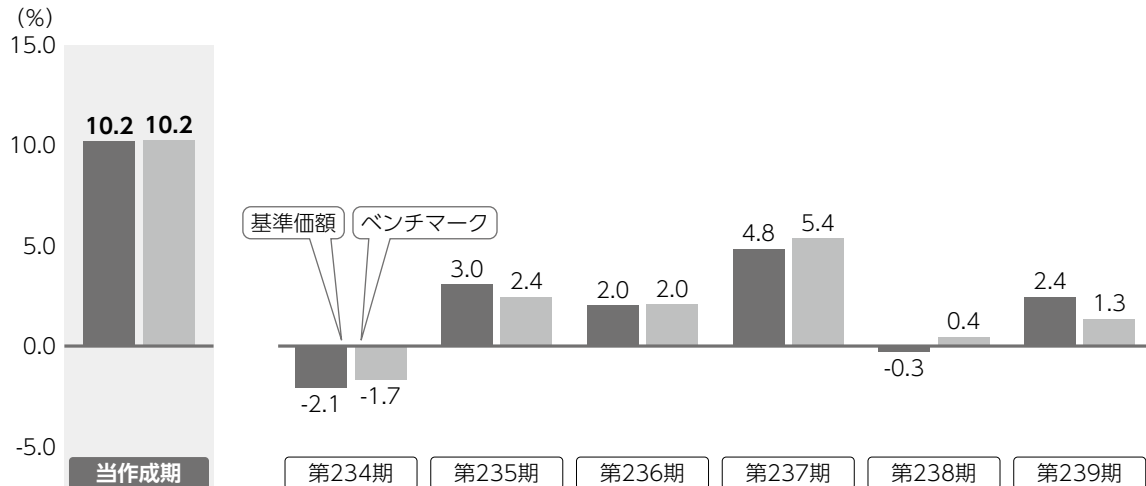
ただし、償還前には現金化しました。

ベンチマークとの差異について(2023年2月21日から2023年8月21日まで)

当ファンドは、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ダイバーシファイド(円換算ベース)をベンチマークとしています。

記載のグラフは、基準価額とベンチマークの騰落率の対比です。

基準価額とベンチマークの騰落率対比



※当作成期の基準価額は分配金再投資ベース、各期は分配金(税引前)込み。

ベンチマークとの差異の状況および要因

基準価額の騰落率は+10.2%(分配金再投資ベース)となり、ベンチマークの騰落率+10.2%とほぼ同程度になりました。

プラス要因

- エジプトは、信用格付けが引き下げられて下落し、アンダーウェイトの資産配分がプラスに寄与したこと
- スリランカは、中央銀行が公表した債務再編計画が債権者に有利な内容であったことが好感され上昇し、オーバーウェイトの資産配分がプラスに寄与したこと
- アラブ首長国連邦は、長期国債のアンダーウェイトと社債の銘柄選択が奏功したこと

マイナス要因

- ウクライナは、ロシアの内紛がウクライナに有利に働くとの楽観論からアウトパフォームし、アンダーウェイトの資産配分がマイナスに作用したこと
- ナイジェリアは、高利回り債への需要と前向きな経済改革が好感され上昇し、アンダーウェイトの資産配分がマイナスに作用したこと
- ガーナは、IMFとの資金調達合意に支えられて上昇し、アンダーウェイトの資産配分が相対リターンにマイナスに作用したこと

分配金について(2023年2月21日から2023年8月21日まで)

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、以下の通りといたしました。

留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたしました。

なお、第239期については、償還のため該当事項はございません。

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第234期	第235期	第236期	第237期	第238期
当期分配金	30	30	30	30	30
(対基準価額比率)	(0.51%)	(0.50%)	(0.49%)	(0.47%)	(0.47%)
当期の収益	18	27	27	27	20
当期の収益以外	11	2	2	2	9
翌期繰越分配対象額	1,527	1,525	1,523	1,521	1,511

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

3 お知らせ

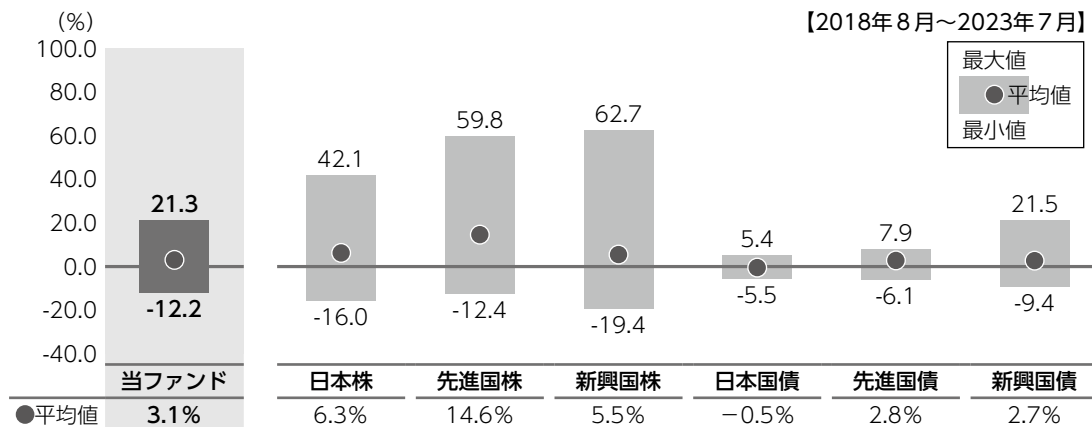
約款変更について

該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／債券
信託期間	2003年9月2日から2023年8月21日まで
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、主として新興国の政府および政府機関等の発行する米ドル建ての債券を中心に投資を行うことにより、安定的かつ高水準の利息収益の確保と信託財産の長期的な成長をめざして運用を行います。
主要投資対象	当ファンドは以下のマザーファンドを主要投資対象とします。 エマージング債券マザーファンド 新興国の政府および政府機関等の発行する米ドル建ての債券
当ファンドの運用方法	<ul style="list-style-type: none"> ■エマージング債券マザーファンドへの投資を通じて、主として新興国の政府および政府機関等の発行する米ドル建ての債券を中心に投資します。 ■J Pモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ダイバーシファイド(円換算ベース)をベンチマークとします。 ■実質外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ■ティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドの運用ノウハウを活用します。 ■マザーファンドにおける運用指図にかかる権限をティー・ロウ・プライス・インターナショナル・リミテッドへ委託します。
組入制限	<p>当ファンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ■株式への実質投資割合は、転換社債の転換および転換社債型新株予約権付社債の新株予約権行使により取得したものに限り、取得時において信託財産の純資産総額の5%以内とします。 ■外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 <p>エマージング債券マザーファンド</p> <ul style="list-style-type: none"> ■株式への投資割合は、転換社債の転換および転換社債型新株予約権付社債の新株予約権行使により取得したものに限り、取得時において信託財産の純資産総額の5%以内とします。 ■外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	<ul style="list-style-type: none"> ■毎月20日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、分配を行います。 ■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益(評価損益を含みます。)等の範囲内とします。 ■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。 <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX(東証株価指数、配当込み) 株式会社JPX総研または株式会社JPX総研の関連会社が算出、公表する指数で、日本の株式を対象としています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCIエマーシング・マーケット・インデックス(グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI(国債) 野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	JPMorgan・ガバメント・ボンド・インデックス・エマーシング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド(円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容(2023年8月21日)

有価証券等の組入れはありません。

純資産等

項目	第234期末 2023年3月20日	第235期末 2023年4月20日	第236期末 2023年5月22日	第237期末 2023年6月20日	第238期末 2023年7月20日	第239期末 2023年8月21日
純資産総額 (円)	4,314,327,232	4,406,795,554	4,424,706,372	4,400,911,051	4,306,810,407	3,787,769,133
受益権総口数 (口)	7,342,908,397	7,314,389,221	7,233,849,517	6,895,864,028	6,800,960,485	5,839,018,061
1万円当たり基準価額(円)	5,876	6,025	6,117	6,382	6,333	6,487.00

※当作成期における、追加設定元本額は37,736,323円、解約元本額は1,574,207,078円です。

7 償還を迎えて

当ファンドは、2023年8月21日に償還となりました。

皆さまのこれまでのご愛顧に御礼申し上げますとともに、今後とも弊社ファンドをお引立て賜りますよう、お願い申し上げます。